

## 早稲田大学 教育学部 地学 講評

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	昨年度は大問3題であったが、今年度は従来のように4題に戻っているが、小問数は全体として殆んど変化がない。計算問題は昨年同様2問だった。早稲田大学地学の特色である「地球史」は総合問題の一部としての扱いだっただ。論述問題は出題されず、描図問題が出題された。昨年は大問として扱っていた天文分野は今年度は出題されなかった。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	岩石・鉱物	小問の半分が選択式であり、含水鉱物に関する問題以外は基礎知識で解ける問題であった。	やや易
II	地質図	地質図に関する問題は頻出であるが、今回は詳しい地質構造を読み取る必要はなく、解きやすかった。	やや易
III	大気	グラフを読みとって計算する問題で、小問2題のみの構成であった。凝結高度を考えるかどうかで計算値が異なるので、この判断が難しい。	やや易
IV	地球史・大気	地球史の問題は早大地学の特色であり、論述問題が出題されることが多いが、今回は描図問題であった。例年と同様、問題文や選択肢で意図がつかめな部分が含まれていた。	標準

## 〔総合コメント〕

早稲田大学地学の問題は、ここ数年、大問数や内容などで変化が多い。今年度は論述問題が出題されず、天文分野や固体地球分野も扱われなかったが、来年度も出題されないとは考えにくい。したがって地学全分野の学習が必要である。また、計算問題と描画問題にも対応できるようにしておきたい。早稲田大学地学の問題を解くには教科書以外の知識も必要であるため、普段から新聞や書籍、ニュースなどに目を通しておくことが望まれる。